第11回 米づくり

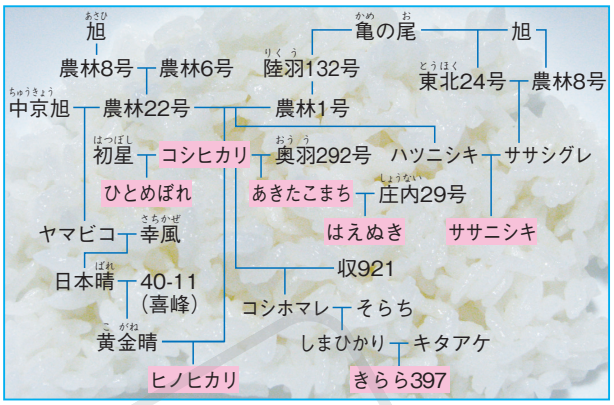
トピック コシヒカリの子どもたち

みなさんは，「知っているお米の品種は？」と聞かれたら，何と答えますか？　おそらく，一番多いのは，「**コシヒカリ**」という答えでしょう。コシヒカリは日本で最も生産量の多い品種で，全国の作付けのおよそ**3分の1**をしめています。

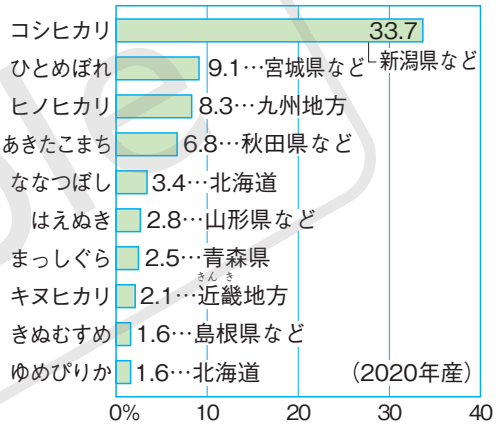
コシヒカリは，1944年，**新潟県**の試験場で「農林22号」と「農林1号」をかけあわせてつくられました。この種もみは**福井県**で育てられ，改良を加えて，1956年に「コシヒカリ」として登録されました。コシヒカリとは，「**越の国(越後・越前)で光輝く**」という意味です。

このコシヒカリは全国に広まりましたが，各地でこれを改良した米の品種の研究もすすみました。「**あきたこまち**」(秋田県)や「**ひとめぼれ**」(宮城県)は，コシヒカリの子ども，「**はえぬき**」(山形県)は孫，「**きらら397**」(北海道)はひ孫にあたります。

コシヒカリは，モチモチした食感にすぐれた，おいしい品種です。しかし，ひとつの成功に満足せず，よりよいものを求める熱意が，新しい品種を生んできたのですね。



お米の「家系図」



(米穀安定供給確保支援機構ホームページ)

稲の品種別作付けの割合

学習の要点

1 米づくりの作業

(1) **米づくりの1年** ➔1

米づくりは，じゅんびからしゅうかくまで，ほぼ1年間かかる，大変な作業です。

※作業だけでなく，よりよい米づくりのための研究もおこなわれています。

▼1 米づくりの1年

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
土づくり→										←土づくり	
		←苗づくり→									
			←田起こし・代かき→								
				←田植え→	←水の管理・農薬をまく・草とり→			←稲かり・だっこく→			
									←かんそう・もみすり・出荷→		

(2) **米づくりの作業**

① **よい種もみを選ぶ** ➔2

おいしい米をつくるには，よい**種もみ**を選ぶ必要があります。中身のつまったよい種もみを選ぶため，農家では**塩水**を使って種もみを選びます。

※塩水はふつうの水よりうきやすくなるため，塩水につけてもうかない種もみは，中身がつまったよい種もみということになります。

▼2 塩水を使った種もみ選び

Sample

② **苗を育てる（育苗）** ➔3

稲作農家のほとんどは，水田に種もみをまくのではなく，発芽して育った苗を水田に植えます。よい苗を育てるため，**ビニールハウス**を使って，「**育苗**」がおこなわれます。

③ **田植えのじゅんびをする** ➔4

栄養分のあるよい土からは，健康な稲が育ちます。よい土をつくるため，まず田んぼを耕し，肥料をまく「**田起こし**」をおこないます。次に，耕した田に水を引き，土の表面を平らにする「**代かき**」をおこないます。

※田起こし，代かきには，**トラクター**という機械が使われます。

④ **田植えをする** ➔5

苗が育ってくると，**田植え機**を使い，じゅんびされた水田に苗を植えます。

⑤ **水の管理をする** ➔6

稲がしっかりと育つためには，水をきちんと管理しなければなりません。特に気温が低いときには，冷害をふせぐために水の深さを深くします。

※水は冷めにくいため，温度をたもつ効果があります。

ズームアップ＋　大切な「中干し」

稲があるていど育ってくると，水田の水をいったんぬいて，土をひびわれさせる「**中干し**」をおこないます。中干しには，次のような効果があります。

・田の中にたまった，ガスをぬきます。
・根がしっかり生えるようになります。

⑥ **稲かり・だっこくから出荷へ** ➔7

稲の穂が出て，全体が黄金色に色づいてくると，「**稲かり**」と「**だっこく**」（稲からもみ〈米〉をはずす作業）がおこなわれます。稲かりには，**コンバイン**という機械が使われます。コンバインを使うと，稲かりとだっこくを同時におこなうことができます。

しゅうかくされたもみは，機械でかんそう，もみすり，精米などの作業をへて，出荷されます。

▼3　育苗のようす

▼4　田起こし（上）・代かき（下）

▼5　田植え

▼6　中干しされた水田

▼7　稲かり

Sample

2 稲作のさかんな地いき

(1) 稲作にてきした地いき ➔8

稲はもともと**熱帯性**の植物であるため，育てるためには次のような条件が必要になります。

① 稲が育つ，夏の時期の**気温**が高いこと。
② **降水量**が多いなど，水にめぐまれていること。

しかし，日本で稲作がさかんな地いきは，東北・北陸など北の地方に集中しています。これは，冷害が起こりやすい地方でも育つ稲になるように，長年にわたって**品種改良**がおこなわれてきたからです。

(2) 稲作のさかんな地いき ➔8・9

稲作のさかんな地方は，**東北・関東・北陸地方**で，中でも，東北地方は全国の米の生産量の約**4分の1**をしめています。都道府県別では，北海道も生産量が多くなっています。

ズームアップ 稲作のさかんな地いきと米の品種

稲作のさかんな地いきのほとんどは，大きな川の流いきにある平野・盆地となっています。これらの地いきでは，特色のある品種の米が栽培されています。

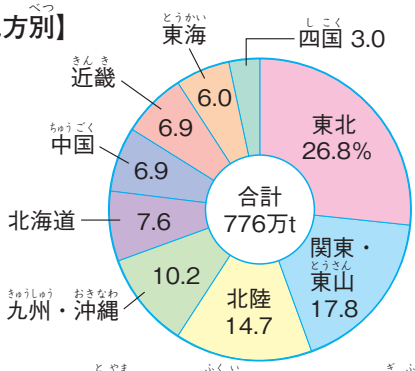
① 北海道……**石狩平野・上川盆地**(石狩川)
⇒「**ななつぼし**」「**きらら397**」
② 秋田県……**秋田平野**(雄物川)
⇒「**あきたこまち**」
③ 宮城県……**仙台平野**(北上川・阿武隈川)
⇒「**ひとめぼれ**」
④ 山形県……**庄内平野**(最上川)
⇒「**はえぬき**」「**つや姫**」
⑤ 新潟県……**越後平野**(信濃川)
⇒「**コシヒカリ**」

(3) 稲作がさかんでない地いき

気温が高く，降水量も多い**沖縄県**は，水をたくわえる大きな川がないため，稲作はさかんではありません。また，大都市の東京や，平地の少ない高知県も，米の生産量が少なくなっています。

▼8 米の生産量(2022年)

【地方別】



北陸は新潟・富山・石川・福井の4県，東海は岐阜・静岡・愛知・三重の4県，東山は山梨・長野の2県。
(2023年版「日本のすがた」)

【都道府県別】

	しゅうかく量(t)	割合(%)
新　潟	631 000	8.7
北海道	553 200	7.6
秋　田	456 500	6.3
山　形	365 300	5.0
宮　城	326 500	4.5
茨　城	319 200	4.4
福　島	317 300	4.4
栃　木	270 300	3.7
千　葉	259 500	3.6
岩　手	247 600	3.4
青　森	235 200	3.2
富　山	197 400	2.7
長　野	187 300	2.6
兵　庫	177 000	2.4
福　岡	164 000	2.3
熊　本	156 800	2.2
全　国	**7 763 000**	100.0

(2023年版「日本のすがた」)
※「全国」にはその他の都道府県をふくみます。

▼9 米の生産のさかんな地いき

Sample

発　展　学　習

1 米づくりの歴史

(1) 大陸から伝わった米づくり ➔1

日本の農業は，古くから稲作が中心となってきました。しかし，最初から日本に稲があったわけではありません。今から2500～3000年ほど前に**中国**や**朝鮮半島**から稲作のやり方が伝わり，全国に広まっていったのです。

(2) 米づくりと日本人のくらし ➔2

稲作が伝わってから，日本人のほとんどは農業をしてくらしてきました。そこで，人々は豊作をいのってさまざまな行事をおこないました。その一部は，現在のわたしたちの生活にも残されています。

ズームアップ＋　米づくりと日本人のくらし

① 正月に，**田づくり**(いわしの小魚)を食べる。
※昔は，田の肥料としていわしを干したものが使われていました。

② 精米するときに出る「**ぬか**」を，漬け物をつくるときに使う。

③ 豊作をいのって，夏祭りをおこなう。

④ しゅうかくを神に感謝するため，秋祭りをおこなう。

2 米づくりの現在

(1) 進む「米ばなれ」 ➔3

戦後，日本人の生活が豊かになると，人々は洋風の食べ物も食べるようになり(**食生活の洋風〔西洋・欧米〕化**)，米の消費量はしだいにへっていきました。政府は水田に稲を植えない**休耕**や，別の作物への**転作**などをすすめる**減反政策**をおこない，米の生産量をへらしてきました。

このような中で，日本は1993年の冷害をきっかけに，外国から米を輸入するようになりました。

(2) 米づくり農家の努力 ➔4

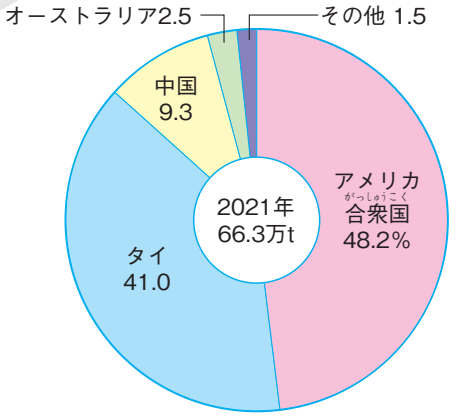
農家は「米ばなれ」をふせぐため，おいしい米の品種を開発したり，安全な米をつくるため，化学肥料を使わない**有機農業**(**有機栽培**)の方法を研究したりするなど，努力を続けています。また，米からつくられた「米粉」の利用なども進められています。

▼1　米づくりの伝来ルート

▼2　田づくり

※「五万米」とよぶこともあります。

▼3　米の輸入先



(2023年版「日本のすがた」)

▼4　米粉を利用した食品

Sample

トレーニング

☆ 次の(1)〜(12)の(　　)にあてはまることばを答えなさい。

□(1) 米づくりのじゅんびのためには，よい種もみを選ぶ必要があります。そのため，種もみを(　　)につけて選びます。 (1)

□(2) 田植えのじゅんびのため，(　　)とよばれるしせつ【右写真】の中で，育苗がおこなわれます。

(2)

□(3) 稲作の作業で，田んぼを耕し，肥料をまくことを(　　)といいます。 (3)

□(4) 稲作の作業で，耕した田に水を引き，土の表面を平らにすることを(　　)といいます。 (4)

□(5) (3)・(4)の作業には，(　　)とよばれる機械【右写真】が使われます。

(5)

□(6) 田植えが終わり，稲が育ってくると，いったん水田の水をぬきます。この作業を(　　)といいます。 (6)

□(7) 秋になると，稲かりがおこなわれます。この作業には，(　　)とよばれる機械【右写真】が使われます。

(7)

□(8) (7)を使うと，稲かりと同時に，(　　)とよばれる，稲からもみをはずす作業をおこなうことができます。 (8)

□(9) 地方別の米の生産量で，最も多いのは(　　)地方です。 (9)　地方

□(10) 都道府県別の米の生産量で，最も多いのは(　　)県です。 (10)　県

□(11) (10)県で多くつくられている，(　　)とよばれる米の品種は，全国でもつくられており，全国の約3分の1がこの品種です。 (11)

□(12) 気温が高く，降水量も多い(　　)県は，水をたくわえる大きな川がないため，稲作はさかんではありません。 (12)　県

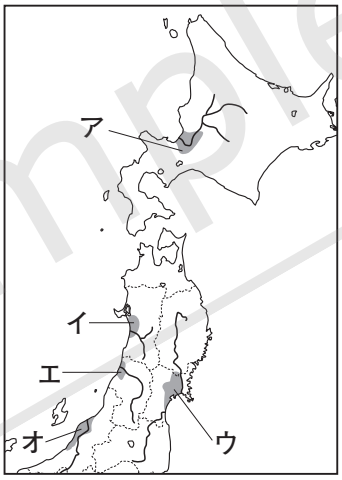
Sample

基　本　問　題

1　次のA～Eの文は，日本で米づくり（稲作）がさかんな平野について説明したものです。これを読んで，あとの問いに答えなさい。

A　①この平野は，信濃川の下流に広がり，日本で一番作付けされている（　あ　）という品種の米の生産で知られています。
B　この平野は，石狩川の下流に広がり，②上流にある盆地とともに，（　い　）という品種の米の生産で知られています。
C　③この平野は，最上川の下流に広がり，「はえぬき」という品種の米の生産で知られています。
D　④この平野は，北上川や阿武隈川の下流に広がり，古くは「ササニシキ」の産地として知られていました。現在は（　う　）という品種が多く作付けされています。
E　⑤この平野は，雄物川の下流に広がり，県の名前がつけられた品種の米の生産で知られています。

□(1)　A～Eの平野の位置を，右の地図中のア～オから1つずつ選びなさい。



□(2)　下線部①～⑤の平野・盆地の名前をそれぞれ答えなさい。

□(3)　（　あ　）～（　う　）にあてはまる米の品種を，次の5つから1つずつ選びなさい。

ひとめぼれ	コシヒカリ
ヒノヒカリ	まっしぐら
ななつぼし	

□(4)　A～Eの平野のうち，米の生産量が全国一となっている県にあるものを1つ選びなさい。

□(5)　A～Eの平野のうち，3つが東北地方にあります。東北地方は，全国の米の生産量の，約何分の1をしめていますか。

□(6)　A～Eとは逆に，米の生産がさかんでない都道府県として，まちがっているものを，次のア～エから1つ選びなさい。
ア　茨城県　　イ　東京都　　ウ　高知県　　エ　沖縄県

1

(1)	A	
	B	
	C	
	D	
	E	
(2)	①	平野
	②	盆地
	③	平野
	④	平野
	⑤	平野
(3)	あ	
	い	
	う	
(4)		
(5)		分の1
(6)		

Sample

練　習　問　題

1　次のA～Fは，米づくり(稲作)でおこなわれる作業を説明したものです。これを見て，あとの問いに答えなさい。

A　中干し

水田の水をいったんぬき，土をひびわれさせます。

B　育苗

ビニールハウスの中で，苗を育てます。

C　代かき

耕した田に水を引き，土を平らにならします。

D　田起こし

田を耕し，肥料をまきます。

E　田植え

苗を水田に植えます。

F　稲かり

機械を使って稲をかります。

□(1)　A～Fを，作業のおこなわれる順にならべかえなさい。

□(2)　Aの作業について，なぜこのような作業をするのですか。かんたんに説明しなさい。

□(3)　Bの作業について，育苗をする前のじゅんびとして，よい種もみを選ぶ作業がおこなわれます。どのようにして，よい種もみを選ぶのですか。次の**ア**～**エ**から1つ選びなさい。

ア　種もみを真水につけ，ういたものを選ぶ。
イ　種もみを真水につけ，しずんだものを選ぶ。
ウ　種もみを塩水につけ，ういたものを選ぶ。
エ　種もみを塩水につけ，しずんだものを選ぶ。

□(4)　C・Dの作業に使う機械の名前を，カタカナ5字で答えなさい。

□(5)　Eの作業について，田植えが終わったあと，水田ではこまめに水の管理がおこなわれます。特に気温が低いときには，水の深さを深くしますが，これはなぜですか。かんたんに説明しなさい。

□(6)　Fの作業について，この作業にはコンバインという機械が使われます。この機械を使うと，稲かりと同時にどのような作業ができますか。

1

(1)	⇒　⇒　⇒　⇒　⇒
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	

Sample

発(7)　A～Fの作業は，日本人が長年にわたって稲作をくりかえしてきたことで，現代まで続いてきたものです。

□①　日本で稲作が始まったのは，今から何年前くらいだといわれていますか。次の**ア**～**エ**から1つ選びなさい。

ア　約250～300年前　　**イ**　約1250～1500年前

ウ　約2500～3000年前　　**エ**　約12500～15000年前

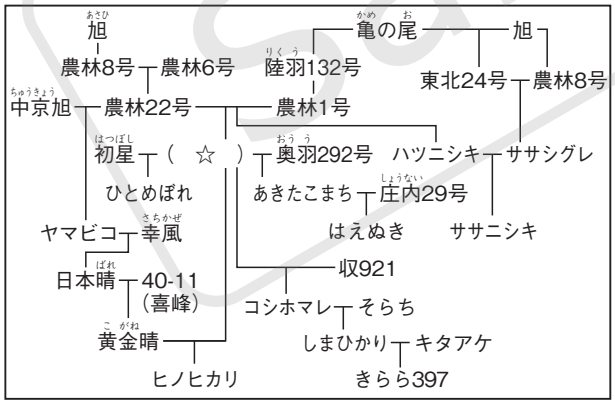
□②　日本人が長年にわたって稲作をしてきたことは，お正月の料理として「田づくり」があることでもわかります。この料理は，何を使った料理ですか。次の**ア**～**エ**から1つ選びなさい。

ア　いわし　　**イ**　えび　　**ウ**　たい　　**エ**　かずのこ

(8)　A～Fの作業でおこなわれる稲作は，東北地方がその生産の中心となっています。

□①　東北地方は，夏になると気温が低くなることがありますが，なぜ熱帯性の植物である稲が，こうした気候の地いきでさかんにつくられるようになったのですか。かんたんに説明しなさい。

ト□②　東北地方では，「あきたこまち」「はえぬき」「ひとめぼれ」などの品種の米が生産されています。これらの品種は，いずれも，次の図中(　☆　)でしめされたある米の品種をもとにつくられています。この品種とは何ですか。



発(9)　現在，日本は国内で米を生産するだけでなく，外国からも輸入しています。日本の米の輸入先第1位(2021年)の国を答えなさい。

発(10)　近年，日本では米の消費量がへる「米ばなれ」が問題となっています。

□①　なぜ,「米ばなれ」が進んだのですか。かんたんに説明しなさい。

□②　「米ばなれ」をふせぐための努力の例を1つあげなさい。

(7)	①	
	②	
(8)	①	
	②	
(9)		
(10)	①	
	②	

Sample